

関連学会印象記 第41回 日本麻酔学会総会印象記

岩月 尚文

第41回日本麻酔学会総会は、天羽敬祐会長（東京医科歯科大学医学部麻酔・蘇生学教室）により、平成6年4月13日～15日東京京王プラザホテルと新宿NSビルを会場に開催された。特別講演5，教育講演16，シンポジウム3，セミナー3，一般演題736題，他にサテライトシンポジウム3と午前9：00～午後5：30迄ぎっしりと生まれ盛り多くさんな学会であった。今回参加者もこれまでの最高とのことで3,000名を超え，盛大，盛況であった。学会のポイント制，東京で行なわれたことなどのためであろうと思われる。今回の特徴は，会期が平日3日間であったこと，教育講演が第一日目の午前中に集中して生まれ，その時間帯には他の演題が全くなかったこと，アイデアコンテストなどの新企画，新工夫が見られたこと，総会号プログラムが抄録自体完成されたもので，プログラムはIndex付きで引用文献として使用出来また英文目次が付いている，などに見られた。もちろん全演題を聴けたわけではないので，私の聴きえたものと抄録集を参考に，循環関係を中心に印象を述べて見たい。

教育講演では，循環関係は鈴木英弘先生の「冠血行再建術麻酔の新しい知見」，熊澤光生先生の「吸入麻酔薬と心機能」，篠山重威先生の「心不全の病態と治療」が講演された。鈴木先生は，手術法，麻酔法，人工心肺，循環補助法の各変遷を述べ，現在動脈グラフトが主流となっていること，セボフルレンの効果，TEEによるモニター，グラフト血流量測定，無輸血手術などが解説され，この領域の現況がよく把握出来た。熊沢先生は，現在使用されている吸入麻酔薬の心臓作用を，直接・間接作用に分け，正常心から虚血心においてup dateな知見を抑制機序も含め詳細に解説し，知識を再整理出来，得るところが大であった。最後に臨床では使い慣れたものを使用すれとのことである。篠山先生は心不全の病態を解説し，治療は患者のQOLを向上させ生命を延長させる様行

なわれるべきであり，この点では単に心筋収縮力を増加させる薬が必ずしも有効ではないこと，一方アンギオテンシン変換酵素阻害薬が有効であると述べた。

特別講演では，直接循環に関係したものはなかったが，多少とも関連したものとしてDr. Mazeの「 $\alpha-2$ adrenergic agonists: Their role in anesthesia」があった。 $\alpha-2$ adrenergic agonistsが単に降圧作用，抗不整脈作用を有するだけでなく，鎮痛，鎮静，麻酔増強作用，虚血に対する保護作用などを有し，今後麻酔領域で重要な薬となると解説した。注目したい。シンポジウムでなんといっても印象深かったのは「一酸化窒素と麻酔」であった。血管内皮よりのEDRFとして注目されたNOが，単にそれだけの役割でなく生体内に広く分布し，神経系においては情報伝達物質であり，記憶や痛覚などにも関与し，虚血後脳細胞傷害にも関係している様である。将来への指針を示す刺激的なシンポジウムであった。

一般演題では約180題が循環関連の発表であった。特に基礎研究では質の高いものが多く，学会の質の高さを示すと共に今後英文での一流雑誌への発表が期待される。麻酔関連薬の各部位血管への作用が内皮作用を通じ検討されていること，これまでの心臓への作用が虚血心モデルを使用していること，各臓器微小循環が問題とされだしていること，サイトカイ関係が検討対象となってきたことなどが目についた。目新しい薬としてはアムリノン，ミルリノンに関する発表が目についた。この血管拡張作用は内皮非依存性であり，心臓作用は同じ β 受容体を介さないグルカゴンより β 括抗薬下では，より有効に働くとの基礎研究と共に，開心術後での有用性を指摘する発表があったが，このことについては他の薬とのoutcome studyを含めた詳細な比較検討が今後必要である。臨床研究では自律神経機能を心拍数変動を元にして評価した発表が興味深く，今後発展しそうである。TEEによるモニターが普及しはじめているが，将来心循環系のモニター

として必須のものとなるのであろうか。有しない施設ではなんらかのあせりと焦燥感を感じているのではないか。臨床検討で気になったことの1つは、対象数があまりに少ない検討が多く見られたとである。10名前後のものが大部分であり、特に outcome study では意味少ないものになってしまう。そんな中で岩手医大からの1,519例の低体温麻酔の発表は outcome study として重みがある。他に気になったのは、患者の同意なくなんの必然性な

くして薬を投与して検討した発表が散見されることである。演題採用に際して学会としてなんらかの方策を取るべきではないかと思われる。

会場が15もあり、当然多くの発表を聴けないことは初めからわかっており、積極的に聴こうとする意欲が当初からそがれる感がしないでもなかった。日程を長くするか、演題数を厳選してもよいのではないか。かなり多くさんの関連学会が出来ていることでもあるし。